

# やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

廣瀬神社の砂かけ祭りのあと、東隣りの川西町保田まで歩いた。ここで夜に田植え行事がある。飛鳥川の右岸、堤を背にして六県神社が東面している。神社まで道を教えていただいたゞ婦人から、今夜は中止だと聞いた。この行事は「子出来オンダ」として知られる。本厄(42歳)の男性が中心になって、水見回り、牛使い、施肥、土拾いをそれぞれ2人一组で農夫役を演じる。

牛は挾殿を暴れ回り、農夫はツバキの葉を枝からちぎって田植えとする。こうした所作のたびに子供が群がり、夜の神社は大騒ぎとなる。その後、白装束の妊婦が半切りおけを頭に乗せて、大きなお腹で登場する。弁当運びの場面だ。お腹には小さな太鼓が入っている。神主役の前に座つて

廣瀬神社の砂かけ祭りのあと、東隣りの川西町保田まで歩いた。ここで夜に田植え行事がある。飛鳥川の右岸、堤を背にして六県神社が東面している。神社まで道を教えていただいたゞ婦人から、今夜は中止だと聞いた。この行事は「子出来オンダ」として知られる。本厄(42歳)の男性が中心になって、水見回り、牛使い、施肥、土拾いをそれぞれ2人一组で農夫役を演じる。

牛は挾殿を暴れ回り、農夫はツバキの葉を枝からちぎって田植えとする。こうした所作のたびに子供が群がり、夜の神社は大騒ぎとなる。その後、白装束の妊婦が半切りおけを頭に乗せて、大きなお腹で登場する。弁

太鼓をたたき、「同は太鼓をたたき、一同は太鼓をたたき」と何度も囁ひする。鳥帽子をかぶった農夫が種まき歌を歌うと、周囲は「よんなか(世の中)よけれども、福音の種を播こうよ」と何度も囁く。なんとも楽しそうで意味深い行事だ。

保田では田植え行事に子供の出産場面が加わるが、男女の交わりを神前で再現して見せるのが、明日香村の飛鳥坐神社のオンダだ。この行事も、今年は一般公開されず、関係者だけで行われた。例年2月第1日曜日午後、神楽殿で官司祝詞の

水口に添えられた牛玉宝印(左)と松苗(中央)。(奈良市三碓町で筆者撮影)



## 稔りを願う民衆演劇

後、天狗と翁と牛役で、田起しやアゼ切りなどをして苗代ができると、官司が糸をまき、早苗を植え付ける所作をする。これまで田植え行事は普通は

まず本体の田植え行事が行われ、さらに苗の無事成長と稔りをより強く暗示する行為として、天狗とお多福の同衾が神前で演じられているのだ。現在は翁役だけであるが、もとは嫗も登場していた。この田植え行事の結果、松苗が人々に授けられる。前半の意味をさらに強めるために、天狗とお多福が交わり、「福音の紙」が配布され、子宝を願う人々が我先きに奪い合う。このような演出になつたのはいつからか、よく分からぬが、

参拝者が注視している。奇祭といわれて、マスクでたびたび取り上げられ、後半ばかりが注目されるが、この行事は2部構成であることに意味がある。まず本体の田植え行事が行われ、さらに苗の無事成長と稔りをより強く暗示する行為として、天狗とお多福の同衾が神前で演じられているのだ。現在は翁役だけであるが、もとは嫗も登場していた。この田植え行事の結果、松苗が人々に授けられる。前半の意味をさらに強めるために、天狗とお多福が交わり、「福音の紙」が配布され、子宝を願う人々が我先きに奪い合う。このように演じられて演じるのは、真摯な民衆演劇だと言える。ここで用いられた松苗と穂が稔りをもたらしてほしいという強い願いを神前で演じるのは、真摯な民衆演劇だと言える。この院の正月行事である修院の正会やオコナイトで祈祷された「牛玉宝印」の刷り物が、苗代の水口に添えられる。神仏の加護により、苗の無事生育を願う光景が今年も田の片隅で見られるだろう。(奈良民俗文化研究所代表)

実によく考えられていい。

る。

県内の田植え行事は、1月初旬から6月まで、盆地部を中心に各地で行われている。「御田植」